

「地震に関する情報」への対応について

突発的な地震が発生した場合や南海トラフ地震臨時情報が発表された場合は、次のように対応しますので、よろしくお願いいたします。なお、鷹岡小学校や天間小学校とも、連絡を取りながら対応していきます。

1 突発的な地震発生時の対応について

(1) 地震発生時の生徒の対応

状況	震度4以下	震度5弱以上
登・下校中	安全には十分に気を付けて、登校する。	学校に近い場合は学校に移動、自宅に近い場合は自宅に移動する。
	津波等の危険が迫っている可能性がある場合には、命を守る行動を最優先とし、判断に迷う場合は学校または最寄りの避難所に移動する。	
在校中	原則、通常通り。	原則、教育活動を中止する。
校外活動中	原則、通常通り。安全確保に努める。	保護者への引き渡しを行い、引き渡しができない生徒については、校内に留め置く。
在宅時	危険を感じる揺れの場合、保護者の判断で自宅待機とします。安全を確認後、登校する。	原則、休校とする。保護者の管理下で行動する。
	津波や家屋の倒壊等の危険が迫っている可能性がある場合には、命を守る行動を最優先とし、判断に迷う場合は学校または最寄りの避難所に移動する。	

2 南海トラフ地震臨時情報の発表時の対応について

(1) 南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、状況に応じて以下のキーワードで南海トラフ臨時情報が発表されます。

情報名	キーワード	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報	①調査中	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	②巨大地震注意	南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の 数倍程度 の状態
	③巨大地震警戒	南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の 100倍程度 の状態
	④調査終了	巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

半割れ(大規模地震M8.0以上)/被害甚大ケース

〈評価基準〉
 ・南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフの西側でM8クラスの地震が発生

東側は運動するのか?

半割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は十数回に1回程度(過去の事例では、103事例中7事例あり)で、**通常の100倍程度の確率。**

※通常「30年以内に70~80%」の確率を7日以内に換算すると千回に1回程度

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表

一部割れ(前震可能性地震M7.0以上8.0未満)/被害限定ケース

〈評価基準〉
 ・南海トラフの想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合(半割れケースの場合を除く)

南海トラフで地震(M7クラス)が発生

南海トラフの大規模地震の前震か?

一部割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は数百回に1回程度(過去の事例では、1437事例中6事例あり)で、**通常の数倍程度の確率。**

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表

ゆっくりすべり/被害なしケース

〈評価基準〉
 ・ひずみ計等で有意な変化として促えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合

【富士市防災マップより抜粋】

(2) 南海トラフ地震臨時情報が発表された直後の児童生徒の対応

国は、以前の東海地震に係る「警戒宣言」とは違い、「臨時情報」では強い規制をかけず、可能な限り普段の活動を継続する方針を打ち出しています。それを踏まえ、当日の対応は以下のようにします。

状況	登・下校中	在校中	校外活動中
調査中	通常通り	通常通り	通常通り
巨大地震注意	通常通り	通常通り	通常通り
巨大地震警戒	情報を知った時点で、自宅、学校の近い方に避難する。	原則、学校に留め置く。保護者が希望すれば、引き渡す。	原則、活動を中止し、安全を確保する。